

2025 年 4 月 27 日 復活節第 2 主日 ヨハネ 20:19～31 「イエスはキリストです」

皆さんは自分を紹介するとき、何を伝えようとされますか。まず名前と年齢でしょうか。

次に今、何をしている人か。学生なのか、仕事をしているのか、趣味は何かなどでしょう。

これは、どこで、だれに、いつ話すかで違ってきます。ここから対話がはじまります。

外国の空港などで、出入国管理官に、入国検査の時に話すとしたら、まず一番大切なのは

「あなたはどの国の人か」です。けれどこれは差し出したパスポートに書いてあります。

だから聞かれるのは、「あなたは何をするためこの国に来たのか」でしょう。あなたが来たのは、観光のためですか？仕事をするためですか？学校で勉強するためですか？それとも家族に会う為ですか？それをまず答えなければなりません。

そして最後に、泊まる場所を聞かれます。これはその人が、その国で、安全に生きる事ができるかを、確かめるためです。このところいろいろな国で、この入国審査が厳しくなって来ました。特に犯罪が多く起きる国では、警察の取り調べのような質問をされます。犯罪者を自分の国に入れたくないからです。

私たちはいつの間にか「この人は嘘をついているのではないか」と疑うようになりました。毎日何本もの偽メールや詐欺メッセージを受け取るからです。時に電話も掛かって来ます。世界中が「生き馬の目を抜く」ような本当に厳しい時代に、私たちは生きています。

そんな中 2025 年 4 月 20 日のイースターに、フランシスコ教皇が世を去ったという、報せが入りました。それは大きな衝撃でした。彼のように貧しい人たちと共に生きることを、忠実に行った誠実な教皇がいたことを、同じキリスト者として、私は誇りに思っています。

それに対して、弱い人たちを大切に出来ない、愚かで下品な人たちが、思い付きで命令を下し、世界を混乱させています。この指導者たちと、フランシスコ教皇との人間性の違いは、誰の目にも鮮やかです。決定的な違いは、神を愛し、隣人を愛しているかです。

これは四つの問いかけを置いてみれば明らかです。

その人の言葉に愛があるか。その人の眼差しに愛があるか。その人の行動に愛があるか。人の痛みや苦しみを背負えるか。この四つが交わる所が、イエスさまの十字架です。

今日の福音書は、「その日、すなわち週の初めの日の夕方、」という言葉からはじまります。イエスさまが復活されたその、イースターの夕方に、弟子たちはユダヤ人たちを恐れて、集まって戸に鍵をかけて引き籠もっていました。

「自分たちの主であるイエスさまは、群衆の熱狂の中で、無惨にも十字架にかけられて殺されてしまった。次に襲われるのは自分たちかも知れない」彼らはとても怯えていました。

しっかりと戸締まりをしていた家の真ん中に、突然殺されたはずのイエスさまがあらわれます。「亡霊だろうか。」弟子たちは恐怖に襲われます。

けれどイエスさまは言われます。

「あなたがたに平和があるように」

そして釘を打たれた手と、槍で刺されたわき腹を、弟子たちにお見せになります。その生々しいみ傷から、弟子たちはここにおられる方が、亡霊や幽霊ではなく、生身の愛するイエスさまであることを知り、イエスさまの復活を喜びます。

イエスさまは大事なことを、二度くりかえして言われます。だからイエスさまはくり返し

て言われます。

「あなたがたに平和があるように。」

そしてさらに大切な言葉を続けて言われます。

「父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」

イエスさまが、神さまから命じられて、私たちのところに、愛と平和を運んで来てくださったように、これから弟子たちもイエス・キリストの愛と平和をもって、世界中に派遣されて行きます。そのためにイエスさまは弟子たちに、神さまの息である、聖霊さまを吹きかけられます。

イエスさまから与えられたのは、愛と平和です。憎しみと争いが渦巻く世界に、弟子たちは聖霊さまだけを頼りに漕ぎ出します。これが信仰の旅路です。イースターの喜びから、私たちクリスチャンの信仰の旅がはじまります。

私たちはイエスさまを「救い主」＝キリストと信じる者たちは「クリスチャン」と呼ばれます。それは聖霊さまの働きによって、「イエスはキリストです」と信仰を告白する人たちです。コリント信徒への手紙 1 12 章 3 節にこのようにあります。＜そこで、あなたがたに言っておきます。神の霊によって語る人は誰も「イエスは呪われよ」とは言わず、また聖霊によらなければ誰も「イエスは主である」と言うことは出来ません」＞イエスさまに息を吹きかけられた弟子たちは、神の霊によって語ります。それは正しくイエス・キリストの十字架と復活を、喜びの報せとして、人々に告知らせる人たちです。

けれどイエス・キリストの復活は、簡単に信じることが出来ない、驚きの報せです。それ

は今日の、疑い深いトマスが仲間たちに言うように、「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」というのも仕方ありません。きっとトマスは「私は決して、話を聞いただけでは信じない。」という強い思いを持って、イエスさまの後に従って来た、とても真面目な人です。

イエスさまもそれをよくご存知なので、イエスさまは優しくトマスに言われます。

「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

トマスは「信じない」と仲間たちに言いました。けれどもイエスさまはトマスに「信じる者になりなさい」と語りかけられます。イエスさまは私たちに語りかけられます。

このイエスさまのみことばは、すべての人たちに向けて語られています。私たちの多くはイエスさまの言われるとおりに、「見ないのに信じる人」です。だから私たちは教会に集まり、イエス・キリストのみ名によって祈ります。それはイエスさまを「私の主、私の神」と告白する祈りです。私たちの主なる神は、必ずこの祈りに応えてくださいます。

イエスさまは、私たちと語り合う方です。私たちの言葉は、むなしく消えることはありません。必ず聖霊のお働きにより、祈りは神さまのもとに届きます。そして答えが与えられます。みことばを聴きましょう。イエスさまのお招きに応えて、ともに神のみ国を目指して行きましょう。すべてのイエスさまを愛する人に、神さまからの平和がありますように。